

第4学年 国語科学習指導案

は組 男子16名 女子17名 計33名
指 導 者 中 熊 豊 仁

1 単 元 場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう

(教材「一つの花」光村4年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第3学年の「心に残ったことを、自分の言葉で表そう」の学習で、場面ごとの登場人物の行動や会話から、人物の気持ちや性格をとらえて読む能力を身に付けている。また、第4学年の「登場人物の人がらをとらえ、話し合おう」の学習で、登場人物の人柄について自分の言葉で考え、進んで伝え合おうとする態度を身に付けている。さらに、特別な言葉に着目して物語を読み、心に残ったことを基に、内容を友達に紹介したいという願いをもっている。

そこで、本単元では、登場人物の心情、情景などについて、叙述や特別な意味が込められた言葉を比較したり、関係付けたりしながら想像して読む能力や、感じたことや考えたことを基に物語を紹介し、友達との違いに気付きながら考えを深めたり広げたりしようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「場面の様子に着目して読み、しょうかいしよう」(教材「一つの花」)を設定した。

この学習は、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえるとともに、優れた叙述について自分の考えをまとめ、友達と伝え合う第5学年の「すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「一つの花」は、戦争中、食べるのもままならない生活を送るゆみ子に対する両親の思いが、「一つだけ」という言葉を軸に、人物の会話や行動として表現されている物語である。社会的事象への関心が高まり、戦争に関する報道に興味を示しながらも戦争を実感することなく育つこの期の子どもたちが、戦争の悲惨さや平和のよさ、子を思う親の愛情を考えるのに適した教材である。また、本教材は、場面が、戦争中と終戦十年後に区切られ、戦争中の「一つだけ」は、戦後には食物を選択できるようになり、「一つだけ」ではなくなる。よって、時間の経過に即して「一つだけ」の言葉がもつ意味を考えることで、物語中の特別な言葉に着目して読む力を高めることができる。さらに、物語を読んで感じたことや考えたことを基に物語について紹介し合うことで、友達との感じ方の違いに気付くことができ、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。

そこで、本単元では、平和にくらせる世界を願って書かれた物語の中から読みたい物語を選んで読み、紹介する文章を書くことを、単元の言語活動として設定する。そして、教材「一つの花」をどのように読み、どのような観点で紹介する事柄を取り上げるのかを明確にしながら読み進める。

具体的には、まず、試し作りとして、「一つの花」を紹介する文章を書いて交流させ、うまく伝わったことや伝わらなかったことを整理させ、紹介する物語の読み方についての課題意識をもたせるとともに、紹介する観点を話し合わせる。また、自分の選んだ物語の並行読書を始めさせる。

次に、登場人物の気持ちや場面の情景を想像させるために、登場人物の行動や会話、心情表現に着目させると共に、題名とそれに関わって各場面に繰り返し出てくる特別な意味が込められた言葉「一つだけ」の意味について、異なる場面どうしの叙述を関係付けさせながら考えさせる。

さらに、「一つの花」を紹介する文章の見直しの文章を書き、試し作りの文章と比較させて、変容やその理由に気付かせ、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。また、自分の選んだ物語について、紹介する文章を書かせる。そして、これらの紹介する文章を、友達の文章と比較させることで、感じ方の違いに気付かせ、自分の考えを深化・拡充するとともに学び合う喜びを共有させる。

これらの学習によって得られる能力や態度は、多面的に文章を読む能力や、様々な見方や考え方を認めながら他と交流しようとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 初発の感想(複数回答)
・ゆみ子への反応(18)〈「ひとつだけ」はかわいそう(8)父親不在への同情(4) コスモスの花を喜んだことへの安堵(2)わがまま(1)かわい(1)成長(1)くいしんぼう(1)〉 ・両親への反応(8)〈優しさ(3)父親の最後の言葉への感動(2)父親の戦争後の所在(2)父親の死への同情(1)〉 ・その他(7)〈家族のきずな(2) 一つを大事にする大切さ(2)戦争のこわさ(1)戦争の悲しさ(1)生き抜くことの大変さ(1)〉
② 疑問に思ったこと
・ゆみ子への反応(19)〈「ひとつだけ」を言うこと(9) ゆみ子がお昼を作ること(4)父親の顔を覚えていないこと(4)いつから「ひとつだけ」を言わなくなったのか(2)〉 ・両親への反応(14)〈何も言わずに行ったこと(4)喜びをもらえないという言葉の意味(2)はしっほのコスモスを渡したこと(2)戦争へ行く理由(2)母親の「ひとつだけ」の口癖(2)「ひとつだけ」に答えること(2)〉
③ 作者の伝えたいこと
・戦争のこわさ、つらさ(9) ・戦争の悲惨さ(7) ・一つの大切さ(6) ・わがままはいけない(4) 平和の大切さ(2) ・物や食べ物の大切さ(3) ・自分たちの今の幸せ(2)
④ 紹介したい内容(複数回答)
・戦争の悲しい話(14) ・ゆみ子の口癖(10) ・あらすじ(2) ・父親が一つの花をあげる(4) ・感動する話(3) ・ゆみ子が成長する(3) ・家族のきずな(2) ・父親を忘れてしまう(2) ・たくさんコスモスが咲く(1)
⑤ 物語を読むときに大切なこと(複数回答)
・人物の気持ち(16) ・会話文(7) ・人物の人がら(5) ・作者の伝えたいこと(5) ・人物の行動(4) ・場面の様子(4) ・文章構成(3)
⑥ 難語句(複数回答)
・配給(20) ・防空頭巾(12) ・とんとんぶき(10) ・勇ましい(4) ・軍歌(3) ・あやす(3) ・兵隊(3) ・プラットホーム(2)

多くの子どもが、戦争というゆみ子の置かれた状況に対して同情する感想をもっている(①)一方で、家族の愛情や絆への感想は少なく、これは、ゆみ子の置かれた状況とその原因となっている戦争との結び付きへの印象が強いことや、疑問に思ったことへの回答から、ゆみ子や両親に関する叙述から場面の様子や登場人物の心情を十分想像することができていないことに起因していると考えられる(②)。作者の伝えたいことについては、戦争のこわさや悲惨さ、物や食べ物の大切さだと考えている子どもが多く、①や②と関連して家族の愛情や絆に関する回答がない(③)。よって、異なる場面の叙述や特別な言葉どうしを比較したり関係付けしたりしながら場面の様子や人物の心情を十分に想像させたり、場面のつながりを意識させたりすることで、読みが深まると考えられる。紹介したい内容は、中心人物であるゆみ子のことや感想の二つの観点に関するものが多く、観点の広がりが見られない。これは、他の観点での読みの経験が少ないことに起因していると思われる(④)。身に付ける国語の能力として、物語を読む時に大切にしていることを挙げさせたが、実態調査の読みでは、場面のつながりを意識している子どもは少ない(⑤)。難語句については、戦争中特有の語句が多く挙げられている(⑥)。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、指導内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考ええる。

ア 単元・教材への興味・関心を高めるために、平和にくらせる世界を願って書かれた物語や家族の絆を考えさせられる物語の並行読書を行わせる。そして、両親のゆみ子に対する思いをとらえさせるために、登場人物の行動や会話に着目させ、人物の気持ちや世の中の様子、出来事を読み取らせる。さらに、作者が「ひとつだけ」に込めた思いに気付かせるために、戦争中と戦争後の場面を比較させ、父親の行動や会話、最後の言葉とつなげながら「ひとつだけ」と言わなくなった理由について考えさせる。

イ ゆみ子の両親の様子や気持ちを読み取らせるために、戦争中と戦争後の場面や人物の様子、一輪のコスモスの花といっぱいになった花など、対比的な表現に着目させる。また、「まるで～のように」という比喩表現に着目させて思いが広がるように読ませたり、「～のでした。」などの文末表現の効果を考えさせたり、接続語や指示語を手がかりに読み深めができるようにしたりする。さらに、表現の効果についても、紹介の観点として意識させ、それを生かして、他の物語の読みが深められるようにする。

ウ 学習したことに対する有用感や成就感を味わわせ、自分の選んだ物語の読みや今後の物語の読みへとつなげるために、身に付けた国語の能力を振り返らせたり、物語を紹介することによって得られたよさを交流させたりする。

3 目標

- (1) 平和にくらせる世界を願ったり、家族の絆について考えさせられたりする物語を読んで心に残ったことを基に、伝えたい内容を選び、友達に紹介しようとするすることができる。
- (2) 叙述や特別な意味が込められた言葉同士を比較したり関係付けたりして、その違いに気づき、登場人物の気持ちを想像することができる。
- (3) 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ち、情景などについて、人物の行動や会話、心情表現をもとに想像して読むことができる。

4 指導計画（全10時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす②	どの物語を紹介しようかな。 紹介する文章を読んだ人が、物語を読みたくするには、どんな内容を、どのように紹介すればいいだろう。	1・2 教材との出会い・試し作り・課題解決の見通し 「自分の選んだ物語について、心に残ったことをしようかいしよう。」 ・ 「一つの花」について紹介する文章を書き、交流する。（試し作り） ・ 単元の目標を設定し、学習計画を立てる。 ・ 「一つの花」を紹介する観点を話し合う。	○ 単元や教材への興味・関心を高めたり、学び合いを通して紹介の内容を深めたりするために、並行読書をするための物語を、教師が予め選択し、提示する。 ○ 単元や教材への課題意識を高めさせるために、「一つの花」を紹介する文章の試し作りをさせ、よりよく紹介するための物語の読み方についての課題を明確にさせる。
しらべる⑤	「一つの花」の学習を通して、物語を紹介する内容を考えよう。 特別な言葉に着目すればいいのかな。	3～7 教材での試行錯誤 『「一つの花」を、観点を考えて読み、しようかいしよう。』 ・ 戦争中と戦争後の世の中の様子や出来事、登場人物の心情を読み取る。 ・ 「一つだけ」や「一つの花」の意味を考える。 ・ 紹介の観点に基づいた感想や考えを書く。	○ 紹介する内容の観点を、子ども自身が見付け、観点を広げたり、観点を意識して教材文を読んだりできるようにするために、試し作りで書いた「一つの花」について紹介する文章の観点について話し合わせる。 ○ 作者の思いに気付かせるために、繰り返し出てくる特別な言葉である「一つだけ」に着目させながら読ませるとともに、戦争中と戦争後の場面を比較させ、「一つだけ」と言わなくなった理由を考えさせる。
ふかめる①	学んだことを生かして、自分の選んだ物語を読み直し、紹介する文章を書こう。 書く内容や書き方が分かったから、最初書いた文章よりもっと読んでみたくなると友達が言ってくれたよ。	8 試行（試し作り）の見直し 『「一つの花」について紹介する文章について交流し、新しく学んだ物語の読み方について確かめよう。』 ・ 自分の選んだ観点に基づいて、「一つの花」を紹介する見直しの文章を書く。 ・ 試し作りと見直しの文章を比較したり、交流したりする。 ・ 学習を振り返り、変容を確かめる。	○ ゆみ子の両親の様子や気持ちを豊かに想像させるために、文章中に多く用いられている対比的な表現や比喻表現に着目させ、一人一人の感じ方について話し合わせる。
ふりかえる①	特別だと思ふ言葉に着目すると、考えが深まるね。	9 教科書教材での試行錯誤 「自分の選んだ物語について、学んだことをもとに読み直し、しようかいしよう。」 ・ 自分の選んだ物語を読み直す。 ・ 観点を明確にして、紹介する文章を書く。	○ 読みを深めたり、表現の効果に気付かせたりするために、文末表現を他の文末表現に置き換え、読んだ感じを比較させ、話し合わせる。
いかす①	いろんな物語を読んで、自分の考えを日記等を書いて紹介しよう。	物語をしようかいするためには、登場人物の行動や会話、作者が特別な意味をこめている言葉に着目しながら読むとよい。	○ 一人一人の感じ方や考え方の違いに気付かせるために、お互いに感じたこと・考えたことやその根拠について比較し、共通点や差異点を明らかにさせる。 ○ 本単元の学習を価値付け、今後に生かすために、身に付けた力を振り返ったり、他の物語を読ませ、観点を明確にして紹介する文章を日記等にかかせたり、交流させたりする。
		10 活用場面の想起 ・ 他の物語を読む。 ・ 他の物語について紹介する文章を書く。	

平和にくらせる世界を願って書かれた物語や家族の絆を考えさせる物語の並行読書

5 本 時 (6 / 10)

(1) 目 標

お父さんの会話や行動、心情表現に着目して読むことを通して、何も言わずに一つの花を見つめながら汽車に乗って行ってしまったお父さんの思いや願いを想像することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、考えの高まりを目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、お父さんの思いや願いに迫らせるために、「なぜ、一輪のコスモスであったのか。」と発問してコスモスの写真を示し、特別な言葉であるゆみ子の「一つだけ」や題名の「一つの花」とのつながりについて考えさせたり、お父さんの会話にあるダッシュの内容について、類推させたりする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 学習のめあてを設定する。 お父さんは、どのような思いで何も言わず、一つの花を見つめながら、汽車に乗って行ってしまったのだろうか。	(分) ↑ 7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題意識を高めるために、子ども一人一人に疑問点を明らかにさせた上で発言させ、出された疑問点を整理して、本時のめあてを設定する。 ○ 友達の考えと比較しながら自分の考えを深めたり広げたりし、自分の考えの変容を実感させるために、直感の考えを確実に書かせる。 ○ 作品を構成する形象を正しくかつ豊かにイメージ化して自分の考えを確実にもたせるために、登場人物の言動や置かれている状況等の場面の様子をおさえてから、ひとみ学習に入らせる。 ○ 表現に着目しながら読ませるために、ひとみ学習で考える場面の前半部分にあるダッシュの内容について皆で話し合わせる。 ○ 子どもの考えを深めたり広げたりするために、ひとみ学習で子ども主体による課題解決をさせつつ、「ともだち」や複数による「みんなで」の場面において、考えの深まりや広がり状況に応じてつなぐ働きかけを行う。
	2 直感の考えをもつ。 3 場面の様子を確認し、課題解決の見通しをもつ。 4 叙述をもとに、お父さんの思いや願いを想像する。	28	
しらべる・ふかめる	ひとり考える ゆみこがキャッキョッと足をばたつかせて喜んだので安心した。	28	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の表現の特徴に気付かせるために、お父さんの見つけたコスモスの花が咲いている場所の表現に何か意味はないのか問う。 ○ お父さんの思いや願いに迫りやすくするために、「一輪のコスモスの花」と題名である「一つの花」という言葉に着目させ、なぜ「一輪のコスモス」であったのかについて問うたり、お父さんの会話のダッシュ部分には、どのような言葉が入るのかを問うたりする。 ○ 紹介する文章を書く材料とするために、本時の学習内容で紹介したいと考えたことについて、メモをさせる。 ○ 自分の変容やその理由を自覚させたり、次時の課題解決への意欲を高めさせたりするために、友達との交流のよさや自分の考えが変わったこと、使用した思考の方法等について振り返らせる。
	友達の考えと比べる お父さんも泣いてしまっただけだし、何か言うことでゆみ子やお母さんが泣く顔を見るのが悲しいからだと考えたのだね。 【経験】		
ふりかえる・いかす	自分の考えをまとめ、直感の考えと比較する おにぎりをねだって泣いていたゆみ子が、美しい一輪のコスモスの花をもらって喜ぶ姿を見て、戦争の中で本来の人間らしい心が育たないのではと心配していたゆみ子の中にも花を美しいと思う心があったことを知り、安心することができたから。	10	
	5 学習のまとめを行う。 ゆみ子が一つの花をもらって喜ぶ姿に安心するとともに、ゆみ子やお母さんのしょう来の幸せを願っていたから。		
	6 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを話し合う。 ○○さんは、二つの表現を比べて、その共通点からお父さんの思いを考えていたよ。その考え方も、考えたこともぼくの参考になったよ。		